

小泉	川本	小泉	川本	小泉	川本	
						「ゴジラの逆襲」の時代
大変珍しい上映会にお招きいただきありがとうございます。	このグリソムギャングではこういった感じで映画を上映してその映画に関わった方をお招きしてのイベントを行っています。	最近では小泉さんもご出演なさった「ゴジラ×モスラ×メカゴジラ 東京SOS」(03)の手塚昌明監督にもお見えいただきました。	みなさんお話が上手な方ばかりですから、私はどうでしょう？（笑）。昔のことで記憶が曖昧になつてきました。何しろ50年前のことですからね（笑）。	今日、皆さんと一緒に「ゴジラの逆襲」をご覧になりましたが、ご覧になるのは久しぶりですか？	ああそうですね。兎に角、昔の自分を見るとなれば、あまりにも幼いんで恥ずかしいです。今の若い俳優さんはみなさん上手ですね。私達と比べるとずいぶん進歩したんだなと感心しますね。私などは演技と言つてもまったく監督まかせで、余り自分で作る	
うとはしなかつたし、その方が監督もやり易かったみたいで、それよりも昔の映画を見ると東宝の俳優仲間がいっぱい出てきますから、懐かしさでいっぱいになりますね。亡くなつた方も多くですかね。	今日、上映した「ゴジラの逆襲」は昭和30年4月24日に公開されました。	小泉さんは28歳の時で、デビュー3年目34歳の本日の出演作です。	ああそうなりますか。	前年の昭和29年11月3日に「ゴジラ」(監督:本多猪四郎)の第1作が公開され、その続編の本作はそれから5ヶ月ばかりという今から考えると大変短い期間で公開されていますね。	そうですね。その頃は映画界がものすごく膨らんで戦後の黄金時代を迎える頃なんですが、「ゴジラ」の1作目はまさかシリーズで作ろうとは東宝も思つていなかつた筈です。お金もたくさんかけた大作で、リスク覚悟で作ったんでしようが、予想以上に大ヒットした。そこで慌てて2作目を企画したという気がします。ですから監督さんも東宝のローテーションでは間に合わなくなり、小田基義さんというピンチヒッター	

〈上映会データ〉

「ゴジラの逆襲」

1955年東宝 監督 小田基義 特技監督 円谷英二

出演 小泉博 千秋実 若山セツ子 志村喬

2007年10月27日 (土)

15:00～ 映画上映

16:45～ トークイベント

ゲスト 小泉博さん

19:00～ ゲストとの懇親会

映画&トークイベント料金 3500円

〈イントロダクション〉

朝日映劇とグリソムギャングが贈りする「ゴジラ復活祈願上映シリーズ」！

第2弾はシリーズ第2作「ゴジラの逆襲」を上映します。

主演俳優・小泉博さんをお招きして「ゴジラの逆襲」をはじめとする数々の映画作品、テレビ番組についてその思い出を語っていただきます。

小泉	川本	小泉	川本	小泉	川本	
うとはしなかつたし、その方が監督もやり易かったみたいで、それよりも昔の映画を見ると東宝の俳優仲間がいっぱい出てきますから、懐かしさでいっぱいになりますね。亡くなつた方も多くですかね。	今日、上映した「ゴジラの逆襲」は昭和30年4月24日に公開されました。	小泉さんは28歳の時で、デビュー3年目34歳の本日の出演作です。	ああそうなりますか。	前年の昭和29年11月3日に「ゴジラ」(監督:本多猪四郎)の第1作が公開され、その続編の本作はそれから5ヶ月ばかりという今から考えると大変短い期間で公開されていますね。	そうですね。その頃は映画界がものすごく膨らんで戦後の黄金時代を迎える頃なんですが、「ゴジラ」の1作目はまさかシリーズで作ろうとは東宝も思つていなかつた筈です。お金もたくさんかけた大作で、リスク覚悟で作ったんでしようが、予想以上に大ヒットした。そこで慌てて2作目を企画したという気がします。ですから監督さんも東宝のローテーションでは間に合わなくなり、小田基義さんというピンチヒッター	
うとはしなかつたし、その方が監督もやり易かったみたいで、それよりも昔の映画を見ると東宝の俳優仲間がいっぱい出てきますから、懐かしさでいっぱいになりますね。亡くなつた方も多くですかね。	今日、上映した「ゴジラの逆襲」は昭和30年4月24日に公開されました。	小泉さんは28歳の時で、デビュー3年目34歳の本日の出演作です。	ああそうなりますか。	前年の昭和29年11月3日に「ゴジラ」(監督:本多猪四郎)の第1作が公開され、その続編の本作はそれから5ヶ月ばかりという今から考えると大変短い期間で公開されていますね。	そうですね。その頃は映画界がものすごく膨らんで戦後の黄金時代を迎える頃なんですが、「ゴジラ」の1作目はまさかシリーズで作ろうとは東宝も思つていなかつた筈です。お金もたくさんかけた大作で、リスク覚悟で作ったんでしようが、予想以上に大ヒットした。そこで慌てて2作目を企画したという気がします。ですから監督さんも東宝のローテーションでは間に合わなくなり、小田基義さんというピンチヒッター	